

令和2年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和2年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第6学年

令和3年1月
目黒区立駒場小学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象児童数（本校）

	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
対象数	72 人	59 人	88 人	79 人	60 人
実施数	72 人	59 人	88 人	79 人	60 人
受検率	100%	100%	100%	100%	100%

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 児童の学習に関する意識

2年 意識調査、国語、算数

3年 意識調査、国語、算数

4年 意識調査、国語、算数、理科

5年 意識調査、国語、算数、理科

6年 意識調査、国語、算数、理科、社会

(3) 実施日

令和2年7月2日（木）

Ⅱ 令和元年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

昨年度に引き続き、1学年を除いて区の標準値を上回っており、概ね満足できる状況である。特に、国語科の「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」と算数科に至っては全ての観点において、目標値を大きく上回っている。これは、少人数指導体制のもとでの指導内容改善や週4回の20分間の学習時間（ベーシックタイム）における国語科・算数科の基礎基本の定着を図った取り組みの成果と考えられる。

また、各教科における基礎・活用についても、1学年を除き目標値を上回り十分満足な状況である。特に活用については、基礎・基本の力を生かして各教科の言語活動を充実させたことや、答えを導く過程を重視して指導し、発表やレポートなどで自分の考えを表出させる活動を続けていることが、思考力・判断力・表現力等の高まりに寄与したと考えられる。

(2) 課題

- ・正答率はおおむね良好であるが、2. 6年生の国語科「話す・聞く能力」と2. 3年生の「書く能力」、さらに5年生の理科「自然事象についての知識・理解」の正答率が平均値と同程度となり、これからの課題となる。特に、観点別にみると3年生国語科の「書く能力」が、他の学年より平均値との差が大きくポイントが低い。また、6年生では、上位者が多い中、下位の児童も一定数いて二極化している。
- ・国語科の観点別正答率において「話す・聞く能力」では、学年が上がるにつれてその率が下がる結果となった。低・中学年で定着した力を維持させるための、指導の見直しやよりきめ細かい指導が必要である。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

(1) 本校の授業改善に向けた方策

- ・算数科では、少人数学習指導の指導方法や指導体制を工夫し、本調査の分析をもとに個に応じた指導のさらなる充実を図る。
- ・週3回朝の読書タイム(コロナ禍では、ほぼ毎日)や図書の時間では、計画的に読書指導を行い、児童の語彙を増やしたり想像力を豊かにしたりする。また、意図的に教師による読書紹介の機会を設けるようにする。
- ・毎日、午後の学習の始めに20分間の学習時間（ベーシックタイム）を設定し、国語科・算数科の基礎・基本の定着を図ったり、「関心・意欲・態度」を高める活動や「知識・理解」を深める課題を積極的に取り入れたりする。
- ・各教科の言語活動の充実を図るため、国語科を中心に他教科でも言語活動の充実をねらいとした教師向けの研修会を行う。今年度も引き続き、思考力・判断力、表現力等の育成に努める。
- ・東京大学・駒場野公園等、恵まれた地域の自然環境を活用し、生活科・理科・総合的な学習の時間などの体験的な学習を充実させ、「思考力・判断力・表現力」を高める。

(2) 本校の各教科における授業改善に向けた具体的な方策

- ・算数科と国語科（4. 5年生）は少人数体制を整えているので、より一側指導内容を工夫していく。その一つは、指導形態や教材開発である。学級担任と少人数担当とが調査結果を踏まえた上で指導計画を再考したり、個に応じた指導を展開したりする。

- ・国語科では、教科書や教材と照らし合わせて調査結果を分析する。また、その分析をもとに指導のあり方を再考し指導改善に努める。
- ・理科の学習では、学校で統一したノート指導を行ったり、観察などの指導では、設問や発問の工夫をしたりして、課題や視点を明確にした授業を行う体制作りを引き続き行う。また、第5学年の理科については、指導計画や評価規準をさらに見直し、観察・実験の技能や自然事象についての知識・理解が深まるよう授業内容の改善を図る。
- ・下位の児童については、個別対応で基礎的な学力を付けていくよう計画・実践していく。

授業改善プラン 駒場小学校 第1学年授業改善プラン

第1学年

	① 課題となる領域等	② 年間指導計画	③ 単元指導計画
国 語	【領域：書くこと】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 ・経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。	① しらせたいな、見せたいな (10月) ② 「ともだちのこと、しらせよう」 (11月) ③ 「てがみでしらせよう」 (1月) ④ 「じどう車ずかんをつくろう」 (3月) ⑤ いいこといっぱい、一年生 (3月)	① 対象をよく見て、見つけたことを絵と簡単な語句で書く。見つけたことを、主語を明確にして文に書き表し、句読点や「は」「を」「へ」の使い方を確かめる。 ② 話し手が知らせたいことを聞いてメモを取り、内容のまとまりを考えながら紹介する文章を書く。 ③ 相手に知らせたいことを集めたり、一番知らせたいことを選んだりして、手紙を書く相手と内容を決める。 ④ 説明の順序に気を付けて、分かりやすく書く。 出来事やその時の様子などについて、「いつ」「どこで」「だれと」などの観点から、自分が思ったことや考えたこととともに、内容が伝わるように書く。
算 数	【領域：数学的表現と活用】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 ・加法・減法を表すキーワードを基に、問題場面を絵や図から考えることができる。	① どんなけいさんになるのかな? (10月) ② 計算ピラミッド (11月) ③ たしざんとひきざん② (2月)	① 加法や減法の意味について理解し、それらが用いられる場面について、絵を見てお話づくりや問題作りをする。 ② 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数を関連付けて考える。 クイズを解くように楽しく計算をする活動を設定する。 ③ 順序数を集合数に置き換えて、計算をする活動を設定する。

授業改善プラン 駒場小学校 第2学年授業改善プラン

第2学年

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：書くこと】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。	①しつもんしあって、詳しく考えよう 「あったらいいな、こんなもの」(7月) ②せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう(12月) ③まとまりに分けて、お話を書こう「お話のさくしゃになろう」(12月)	①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。 ②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ③自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
	【領域：読むこと】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 事柄の順序などを考えながら、内容を読み取ることができる。	①じんぶつと自分をくらべて読もう 「わたしはおねえさん」(12月) ②お話をそうぞうしながら読もう「スーホの白い馬」(2月)	①教科書に線を引いたり、書き込むことで、人物像や特徴をおさえるようにする。 ②登場人物の言動から、その心情を考え、意見を交流する場を設定する。
算数	【領域：数と計算】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 - 加法・減法にあった文章問題を選ぶことができる。 - 異種の量の加法の式に合った図を選ぶことができる。 - 絵の中の時計を読み取り、条件を満たす場合を考えることができる。	①かけ算(10月) ②たしざんとひき算(2月)	①乗法が用いられる場面を一つ分の大きさと、そのいくつ分かというところに着目させて具体物や図、式などで表現させる。 ②数量関係を図や言葉や式で表し、加法や減法の相互の関係を説明する時間を設定する。

授業改善プラン 駒場小学校 第3学年授業改善プラン

第3学年

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：書くこと】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 - 自分の思いや考えが明確になるように、順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 【領域：言葉の特徴や使い方に関する事項】 (観点：知識・技能) 既習事項との関連 2年生までの漢字を正確に読み書きできる。	①組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう 「仕事のくふう、見つけたよ」 (9月) ②れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう 「食べ物のひみつを教えます」 (11月) ③組み立てにそって、物語を書こう 「たから島のぼうけん」 (12月) ④新出漢字の学習 (通年)	①メモ書きをもとに、小見出しを考えさせる指導を行う。また、与えられた情報の中から取捨選択し、短文作りをする活動を取り入れる。 ②資料から調べたことについて、要点を落とさずにメモすることを指導する。また、メモ書きをする際に、マッピングを活用したワークシートを用意する。 ②段落ごとの内容を分けられるように、ワークシートを別々に用意し、一つの段落には一つの内容を書けるように工夫する。 ③地図から想像したことをたくさん出させ、物語作成の材料を引き出す。 ④新出漢字の学習に合わせてこまめに振り返りテストを行ったり、2年生までの漢字を作文の中で使わせたりしている。
算数	【領域：図形・測定】 (観点：知識・技能) 既習事項との関連 辺、面の形、直角といった図形を構成する要素に着目して図形をとらえたり、弁別したりすることができる。	①長いものの長さのはかり方と表し方 (7月) ②円と球 (10月) ③重さのたんいとはかり方 (11月) ④三角形と角 (2、3月)	①学校の外に出て1kmを歩いて測定する体験を通して、適切な量感を養う。 ②校庭にて、中心から同距離の位置に玉を置いていき、それを屋上から観察することで円のでき方を実感させる。 ③直接比較、任意単位による比較、普遍単位による測定を段階的に指導することで、適切な重さの表し方について考えられるようにする。 ④第2学年の既習事項を丁寧に確認しながら、スパイラル的に学習を進める。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：思考・判断・表現) - 科学的な物の見方をしようすることができる。 - 問題解決的な学習方法に取り組むことができる。 既習事項との関連 - 身近にあるものを使って遊びを考え、その面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	①風やゴムで動かそう (7月) ②音を出して調べよう (11月) ③物の重さを比べよう (12月) ④明かりをつけよう (1月) ⑤じしゃくにつけよう (2月)	- 学習課題を正確に把握し、予想・実験・結果・考察という問題解決学習の流れを身に付けられるようにする。 - 表などを使って実験結果を整理し、比較できるようにする。

社 会	【領域：現代社会の仕組みや働きと人々の生活】 (観点：思考・判断・表現) ・社会的事象に対する興味・関心をもつことができる。 ・身近な社会的事象から観察し、考察することができる。 既習事項との関連 ・町探検にて、地域の生活に関わり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をすることができる。	①まちの人々の仕事 (9・10月) ②わたしたちのくらしをまもる仕事 (11・12月)	・児童の興味や関心を高めるために、自分たちの住んでいる地域や、自分たちの生活に即した体験活動を多く計画する。 ・身近な社会的事象から、調査や観察したことを相手に伝えることを意識して、白地図や新聞などにまとめる活動を行う。
----------------	--	---	---

授業改善プラン 目黒区立駒場小学校 第4学年授業改善プラン 第4学年

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 （観点：知識・技能） 【領域：書くこと】 （観点：思考・判断・表現） 【領域：読むこと】 （観点：思考・判断・表現） 既習事項との関連 - 国語辞典の使い方を理解している。 - ローマ字を読むことができる。 2段落構成で文章を書くことができる。 - 表と文章を関連付けて考えることができる。	①事実を分かりやすくほうこくしよう 「新聞を作ろう（アンケート調査のしかた）」 （6月） ②伝わる言葉「慣用句」 （11月） ③言葉について考えよう「文と文をつなぐ言葉」 （2月）	- 教材文を読み、難しい語句を国語辞典で調べる時間を設定し、国語辞典の使い方を身に付け、語彙を増やすようにする。 - プログラミング学習の際に、ローマ字入力を通してローマ字の読み方を理解する。 ①書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。書いたことを読み返し、必要に応じて修正する。 ②慣用句の意味や使われ方を国語辞典で調べる。例文を作り、友だちと読み合う。 ③主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解する。文章を必要に応じて整える。
算数	【領域：数と計算】 （観点：知識・技能） 既習事項との関連 分子が1の分数が何個で1になるかを理解し、答えることができる。	①倍の見方（9月） ②がい数（9月） ③計算のきまり（10月） ④分数（11月） ⑤小数のかけ算とわり算 （1月）	④視覚的にとらえられるに具体物を用いて真分数、仮分数、帯分数の意味と用語を指導するとともに、同分母分数の加法、減法の計算のしかたを考える過程においては、図や数直線などを用いて表現する場を多く設定する。 ⑤小数の乗除では、単に答えが合えばよいという結果重視ではなく、結果が出るまでの手順や思考を重視して、意見を出し合う場を多く設定する。
理科	【領域：エネルギー】 （観点：思考・判断・表現） 既習事項との関連 鉄の缶とアルミニウムの缶は、電気を通すかどうかでは区別できないことを指摘することができる。	①電流のはたらき（8月）	①乾電池とモーターをつないでプロペラを回し、車を走らせる導入において、回路について振り返りを行う。その際に、導線が電気を通すということから、電気を通すものと通さないものについて復習を行う。

社会	【領域：地理的環境と人々の生活】 （観点：知識・技能） <u>既習事項との関連</u> ・東京都の特徴について、地図帳や資料をもとに判断することができる。	①東京の特色ある地域の様子（１月）	①毎時間、地図帳を活用して、東京都内の地理の様子を振り返る場面を設定する。そこで、八方位の言葉の意味や土地の使われ方について繰り返し確認する。 ①各小単元が終わった時は、重要語句を用いつつ、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
----	--	--------------------------	--

授業改善プラン 駒場小学校 第5学年授業改善プラン

第5学年

	① 課題となる領域等	② 年間指導計画	③ 単元指導計画
国語	【領域：話すこと・聞くこと】 (観点 思考・判断・表現) 既習事項との関連 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取ることができる。	①話の意図を考えてききあい、「きくこと」について考えよう。 「きいて、きいて、きいてみよう」 (4月) ②事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう。 「提案しよう、言葉とわたしたち」 (2月)	①「きいて、きいて、きいてみよう」の単元で、メモの取り方について丁寧に指導し、記録者としてメモを取りながらインタビューを聞く活動を設定する。また、自分が取ったメモを見ながら、聞き取ったインタビューの内容について報告する活動を設定する。 ②「提案しよう、言葉とわたしたち」の単元で、話し手の推薦するものやその理由など、聞くポイントを整理してから発表を行い、聞き手が話し手の意図を考えながらスピーチを開けるように指導する。また、メモを取りながらスピーチを聞かせ、気付いたことをお互いに発表する活動を設定する。
算数	【領域：図形】 (観点：知識・技能) 既習事項との関連 四角形の対角線の性質を理解できる。	①図形な合同 (6月) ②図形の角 (7月) ③正多角形と円 (1月) ④立体 (2月)	①合同な図形についての理解を深めるために、ぴったり重なる図形を確かめたり、実際に合同な図形を描いたりする際に、作業的・体験的な活動を設定する。 ②三角形の角の大きさの和を測定や多様な算数的活動を取り入れて確認する。四角形や多角形の内角の和についても、三角形の角の大きさをもとに考え、説明させる場面を多く設定する。 ③折り紙を使って正多角形を作るなどの活動の場を多く設定し、正多角形の定義や性質への理解を深める。また、円周率については、3.14に至る過程を大切に考え、直径と円周の関係を調べる時間を多く設定する。 ④立体図形の模型を観察したり、展開図に表したものを組み立てたりする活動時間を多く設定する。
理科	【領域：物質 エネルギー】 (観点：知識・技能) 既習事項との関連 乾電池の並列つなぎを理解できる。	①電流が生み出す力 (1月)	①電磁石を作って電流を流し、電磁石と棒磁石を比べながら、電磁石の性質について考え、電磁石の性質についてまとめる。 ①電磁石を強くする方法について話し合い、調べる計画を立て、電流の強さを変えたり、コイルの巻き数を変えたりしたときの電磁石の強さについてまとめる。 ①電磁石を利用した道具やおもちゃを作る。電磁石のはたらきについてまとめる。

社会	【領域：国土】 （観点：知識・技能） 既習事項との関連 ・世界の主な大陸や海洋、国の名勝や位置などを地図から適格に読み取る。	①わたしたちのくらしと国土 （４月）	①地図の読み取り、縮尺の考え方について丁寧に指導し、地図から主な国の位置や名勝を読み取ったり、ある地点からある地点への距離を求めたりする活動を取り入れる。 ①他の単元に置いても、地図を積極的に活動に取り入れ、地図を使うことに慣れさせる。
-----------	--	-------------------------------	--

授業改善プラン 駒場小学校 第6学年授業改善プラン

第6学年

	① 課題となる領域等	② 年間指導計画	③ 単元指導計画
国語	【領域：話すこと・聞くこと】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。	①目的や条件に応じて、計画的に話し合おう 「みんなで楽しく過ごすために（伝えにくいことを伝える）」 (12月) ②資料を使って、効果的なスピーチをしよう 「今、私は、ぼくは」 (2月)	①活動について自分の考えをもち、主張や理由、根拠について明確になるように、図や表で整理する。話し合いをする中で、それぞれの考えの相違点、問題点、改善点などについて図や表を活用しながら明確にし、結論をまとめる。 ②グループの中で互いのスピーチについて、話の構成や資料の効果をめぐって意見交換させる時間を設定する。
算数	【領域：図形】 (観点：知識・技能) 既習事項との関連 展開図をかくことができる。	①算数のしあげ (1・2・3月) 復習 「対称な図形」 「拡大図と縮図」 「円の面積」 「角柱と円柱の体積」	①図形の性質、面積、体積の復習をする。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 電磁石と棒磁石に共通する特徴を理解できる。	①「電気と私たちの暮らし」 (1月)	①電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる。発電や蓄電、電気の変換についての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に妥当な考えを作り出したり、主体的に問題解決したりする。
社会	【領域：工業生産】 (観点：思考・判断・表現) 既習事項との関連 環境にやさしい自動車づくりの工夫について、複数の資料をもとに読み取り、その内容を表現することができる。	学習問題を見付けすすんで追及・解決しようとする。(通年)	資料から気付いたことを書いたり発表したりする活動を多く取り入れるとともに、疑問に思ったことなどの予想を立てさせ、調べたり話し合ったりする活動を積極的に行う。